

syoun
旬



2015 September

No.518

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

人吉医療センター 災害実動訓練



災害訓練 本部



トリアージエリア



黄エリア



赤エリア



赤エリア



緑エリア

8月30日(日)人吉市総合防災訓練が実施され、当院も共催として人吉医療センター災害実動訓練を行いました。想定は震度6弱の大規模地震が発生し、各地で家屋倒壊、火災、交通事故等により多数の被災者が出たというもので、私は2次トリアージチームとして参加しました。

2次トリアージチームはリーダーに武藤医師と私を含め8名の看護師から編成されたチームです。重症度を選別するトリアージエリアに待機し、「赤」(重症)と判定された被災者に対し2次トリアージを行いました。チームの目的は「赤エリアのスムーズな治療」であり、赤エリアのスタッフが被災者の緊急度と病態を把握し、治療順位や治療エリアの選定、医師とのマッチングがスムーズになるように設置されました。そこで私たちは各被災者の病態が一目で分かるチェック表として「2次トリアージ表」を活用し、診て、聴いて、触り解剖学的評価からトリアージを行い、搬送の優先順位を速やかに決定する

ことが求められましたが武藤医師と連携を図り遂行できました。

今回の訓練には上記の2次トリアージのトライアルや多数来院者を患者・非患者と選別するための総合案内所の設置、スマートフォンのスカイプ機能を使い災害対策本部へ各エリアのライブ映像の配信など新しい試みを行ったことや毎年ご協力いただく地域協会の、人吉アマチュア無線クラブの皆様のご協力のおかげで充実した訓練ができたと感じました。

人吉球磨には活断層が走っており、いつ大規模な地震が起きるか分かりません。また南海トラフ地震という巨大地震は高い確率で発生予測もできています。訓練を通して災害時の救急対応の流れと災害対策本部、各トリアージエリア、部署との情報共有の必要性を学ぶことができました。

5階病棟看護師 赤池 和則

救急フェア

9月9日の救急の日に伴い、地域住民に対して救急医療及び救急業務への正しい理解と知識を深めることを目的に、9月6日（日）に人吉スポーツパレスにおいて、人吉市医師会との共催により「第21回 救急フェア2015」を開催しました。

メインステージは、地元出身タレントの高村公平さんの司会で始まり、管理者の内山山江村長、岐部医師会副会長、中山消防長の挨拶がありました。この後、人吉医療センター 田浦先生の「身近なものによる救急」の講演をしていただき、来場者の救急に関する認識も広がったようです。

引き続き防災・救急ポスター入賞者の表彰式、郷熊戦煌ジュグリッターショー、お楽しみ抽選会が行われました。

表彰式では中山消防長、原幼年消防クラブ会長から、入賞者39名の児童に表彰状とメダルの授与があり、ヒーローショーは子供たちの大声援と熱気が会場全体を包み、握手会、写真撮影などのふれあひも行われました。

また、小アリーナの中では、幼年消防のポスター展示があり、展示されたポスターを家族連れで鑑賞していました。



第一武道場では、習字の展示、健康相談コーナー、人吉医療センタースタッフによる「乳幼児と小児の応急手当実技コーナー」と救急隊による「応急手当コーナー」などが行われ、多くの来場者が真剣に取り組んでいました。また、応急手当実技を体験した方には救急グッズが配布されました。

一方、スポーツパレス駐車場では、消防車両展示、梯子車搭乗、放水体験、煙体験などのコーナーが設けられ、雨天にもかかわらず、大変多くの来場者が訪れ体験を楽しんでいました。

今後も地域住民の救急・救命に対する意識啓発に、努めていきたいと思ひます。

人吉下球磨消防組合 企画教養課

9月6日（日） 救急フェア2015が開催されました。

今年は初めてスポーツパレスで開催され、駐車場に着くと、消防車両、はしご車、煙体験ハウス、放水体験と並んでおり、これから子供で溢れるのではないかとこの雰囲気がありました。

私は開会挨拶後の医師講演がメインで、「身近なものによる救急」の演題で講演しました。私の講演後に「子どもの事故予防」の講演があり、それに繋がるような内容で話ができただけよかったのではないかと個人的には思いました。

ステージの横に防災・救急ポスターが並べられてあり講演の後に表彰されていましたが、大変よく描かれており、救急車に

は「HITO」とも書いてあり楽しませてもらいました。ヘリコプターの絵もよかったです。

来場者はおおよそ1200人だったそうで、会場内には子供さんが多く、私の子供もはしご車試乗させて頂き楽しんでいましたが、時々雨や風があり「訓練」のような雰囲気もありました。メインステージの最後のイベントにお楽しみ抽選会があり、消防車両のラジコンもありましたが、私も欲しかったです。また来年も行こうと考えています。

救急・総合診療科部長 田浦 尚宏

毎年救急フェアにボランティアで参加しています。今回は6名のスタッフで参加し、小児の応急手当（小児・乳児のBLS）+AEDを担当しました。親子連れの方が多く親子人形を並べて一緒に胸骨圧迫をされている光景が印象的でした。

今年は胸骨圧迫の評価が可視化できるトレーニングツール「あっぱくん」を体験して頂きました。体験中「もう少し速く」「もう少し深く」「素晴らしい」など胸骨圧迫に合わせて声を掛けてくれるため、体験者は音声を聞きながら修正していきます。

胸骨圧迫の速さ・深さ・戻しを数字で評価し結果が印刷でき

るので体験者へ具体的にフィードバックできます。15名の方が体験され、結果説明に納得されていました。

私たちは、一般の方がこの機会に救急要請からの一連の流れや胸骨圧迫・AEDなど経験して「いざ」と言う時に少しでも落ち着いて出来るように活動をしています。

ドクターヘリが熊本から20分で飛んできますが、今倒れた人の命を助けるのは傍にいるあなたの勇気ある一声と行動です。

ICU 看護師 榎木 さゆり

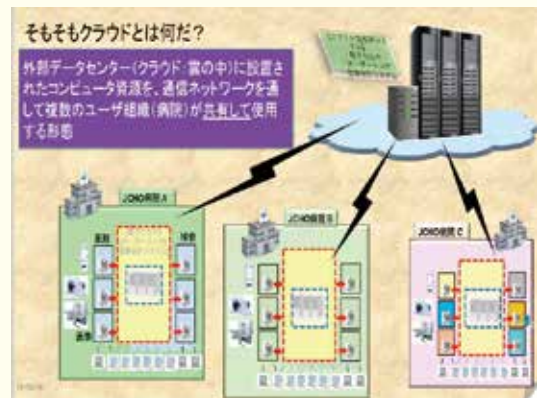
JCHOクラウドプロジェクト

クラウドプロジェクトとは、全国JCHOグループの57病院中10病院を対象にして、クラウド型の電子カルテシステム、オーダリングシステム、医事会計システムの構築を行うものです。当プロジェクトでは、東西二つのデータセンターにサーバを設置し、JCHOの病院がそれぞれ近いデータセンターから基幹システムのサービスを受ける計画です。サーバがデータセンターに集約され、また仮想化技術をふだんに活用しているため、大幅なIT投資の削減が期待できるシステムとなっています。

クラウドプロジェクトのメーカーがソフトマックス株式会社に決まり、人吉医療センターの本稼働は平成28年末の予定となっております。

全国には公的な病院並びに民間の病院を含め、グループ病院が数多くあります。JCHOクラウドプロジェクトが契機となり、他グループ病院においても、今後医療IT投資の削減を目的に、同様な取り組みが進んでいくものと考えられます。

総務企画課 高田 要人



人吉医療センター 認定看護師会



認定看護師とは、日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。

認定看護師は、看護実践を通し、看護現場における看護の広がりや質の向上に貢献します。

認定看護師による研修会に参加してみませんか。

当院には14名の認定看護師が、さまざまな分野で活動しております。

私たちは、地元で研修会を開催し人吉・球磨地域の医療機関で働く皆さんと共に看護を展開したいと考えています。この機会に、認定看護師を活用してみませんか？



第1回 認定看護分野紹介 私たちこんなことをしています！

●救急看護（代々三幸・杉松幸太郎）

救急患者は緊急度・重症度が高く、瞬時に患者の問題点を抽出する「洞察力」が必要になってきます。私達はそのエキスパートとして、フィジカルアセスメント、臨床推論、救命処置を得意としています。共に救急看護を考えてみませんか？

●がん性疼痛看護（石牟礼亜香）

がんの痛みは、約90%の人が体験するといわれています。身体の痛みは、様々な苦痛な症状を引き起こします。痛みを切り口に苦痛を一緒にマネジメントしながら、少しでも軽減できるようにお手伝いさせていただきます。

●手術看護（尾方陽子）

手術室の看護に興味はありませんか？
体温管理や手術体位など手術に関する事はもちろん、手術前の注意点や静脈血栓など手術室じゃなくても活用できる事があります！
お気軽にお声かけください。お待ちしております。

●感染管理（別府るみ）

針刺し事例から、現場で実践できる対策を一緒に考えてみませんか？嘔吐物を実際に処理し、職員みんなができるようにセットは自前で作ります。消毒薬がなくても、キッチンハイターさえあれば大丈夫。身近な対策から始めましょう。

*研修会は、2016年2月頃の開催を予定しております。たくさんの方のご要望をお待ちしております。

認定看護師担当窓口

人吉医療センター感染管理室

FAX 0966-24-2116 ☎ 0966-22-2191

地域包括ケアに向け、研修会開催

台風15号が吹き荒れた8月25日「がん患者への対応について」をテーマに当院の緩和・在宅医療センター長 西村卓祐先生を講師として、第4回球磨圏域介護支援専門員協会 研修会を人吉医療センター3階講堂で開催しました。この研修会は、介護支援専門員の研修会としてだけでなく、人吉球磨ドクターネットにご協力いただき、在宅医療連携拠点事業の一環として開催され、在宅にかかわる医師、薬剤師、訪問看護師など多職種の方が参加されていました。

癌というと、手術や放射線治療、化学療法といった副作用を伴う治療や、癌が身体に浸潤したときに生じる痛みや様々な症状から、辛く、苦しいイメージを持たれることが多いのですが、現在は治療中に生じる副作用対策や疼痛を緩和する為の薬剤も種類があり、100%ではないが、かなり苦痛を軽減できることについて説明がありました。また、癌はその経過に対しての予測がつくため、家族と残された時間をいつくしむことができるなど、がん患者さんを多く看取られた医師ならではの癌に対するイメージを変化させ、死そのものを自然なこととして受け入れる、という死生観を含む考えさせられる講演でした。

殆どの人は、病気が治癒することを願って医療機関を受診されます。もちろん、医療者も病気が少しでも良くなる



ことを願って治療、ケアを行っています。しかし、今回の研修を通して、治癒ではなく、病気を抱えながら生活の質（QOL）を保ち、自分らしく最後を迎えるための医療もあるということ、地域包括ケアを支える職種が、自身の持つ医療に関する考え方や死生観を見直す良い機会となりました。

また、研修会の後は、お決まりの懇親会（コミュニケーション）が開催されました。職種を越えてコミュニケーションを図ることで、人吉球磨の地域包括ケアはきっと特産の球磨焼酎のような地元の特色を活かした深い味わいのあるものになると思います。

医療福祉連携室 社会福祉士 岡本 理恵

平成 27 年度大規模地震時医療活動訓練 参加

平成 27 年度大規模政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練が行われました。

東京湾北部を震源とする首都直下地震を想定し、DMAT の参集、参集拠点・SCU・ロジスティックチーム運営、EMIS の運用などが訓練項目にあげられ、当院からは下川副院長、西村淳医師、尾方看護師、立開看護師、山田業務調整員の 5 名で参加してきました。

9 月 1 日発災後、成田国際空港多機能施設に参集、統括 DMAT から被災状況の説明があり、多数の人員の要請や資機材や衛生材料の不足との事。

当院 DMAT チームは、「病院支援目的」と「不足している医療資機材、衛生材料」を持って船橋市立医療センターへ。飛行機で成田空港へ向かったので移動手段がなく、今回はレンタカーを借り出動しました。(移動時間:約 1 時間)

知らない場所を移動するのは非常に大変で、移動手段やルートの確認、支援先施設からの情報が大変重要となります。

船橋市立医療センターでは拠点本部活動が行われていました。まだ本部活動が開始したばかりと言う事もあり、緊急人員要請のあった済生会習志野病院への病院支援と被災状況を EMIS での入力や衛星電話での情報共有もして欲しいと命じられ出動。(移動時間:約 30 分)

EMIS が拠点本部や他の DMAT チームとの重要な情報のやり取りとなります。

済生会習志野病院では机上訓練が行われ、医師と看護師



は模擬患者のトリアージ、搬送経路の確認、治療方法、搬送患者の決定、広域搬送用カルテの作成、調整員は看護師と協力して EMIS の入力、クロノロ作成、衛星電話での情報提供、人員や不足資機材の要請、広域搬送用カルテの入力を行いました。入力後は船橋市立医療センターへ患者搬送。

患者とカルテを搬送先スタッフへ申し送り、搬送完了。無事に活動終了となりました。

今回の訓練を経験して、事前に準備していても現場まで資機材や医療機器を持っていけるのか、どれだけの事が出来るのか、移動手段やルートの確認、情報共有の難しさを痛感し、DMAT チーム 1 隊だけでは正確な活動、情報収集や提供が難しい事もわかりました。

他の DMAT チームや支援先スタッフと連携し、いかなる時でも冷静に対応出来るよう今後の課題として活動していきたいと思えます。

DMAT 業務調整員 山田 孝幸

臨床研修医挨拶

9 月で人吉での研修を終えることとなりました。あっという間の 1 年間でした。先生方をはじめスタッフの方々には大変お世話になりました。ご迷惑ばかりかけていたと思いますが、色々なことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

大学で半年間研修したとはいえ、医師としては右も左もわからないような状態で人吉へやってきた 1 年前、救急外来などでの同期の働きをみて、『半年間でこんなにも大きな差がついてしまったのか…。』とショックを受けたのを覚えています。わからない事・出来ない事だらけの中、周りの人に支えられながらなんとか 1 年間やってきて、まだまだ未熟ではありますが医師として少しは成長できたのかなと感じています。

知らない土地、知らない人たちばかりのところに行くのは不安だな、行きたくないな、と人吉に来る前は思っていました。しかし、充実した研修だけではなく、人吉という土地の魅力(・・・というか食べ物とお酒。美味しかったです。)を知った今では戻りたくない気持ちでいっぱいです。どうにか人吉での研修を延長できないかな、と思いましたがどうにもなりませんでした。

10 月からは再び熊本大学附属病院に戻り、残りの半年間研修を行います。現時点ではどの科に進むかはっきりと決めていませんが、いつの日か人吉に戻ってきて恩返しができるかな、と思っています。一年間、本当にありがとうございました。お世話になりました。

熊本大学医学部附属病院 臨床研修医 前田 和也

クラーク業務紹介

当院は、2008 年 11 月より医師事務作業補助者(以下医療クラーク)を導入し今年で 6 年目を迎えます。当初は医療クラーク 2 名での実働でしたが、9 月現在は 19 名に増員され業務の幅も拡大しています。増員により医師事務作業補助体制加算 15 対 1 (810 点)の算定が可能となりました。

業務内容は大きく分けると、「文書作成」「代行入力」「事務作業」「行政上の対応」の 4 種類になります。配属先は医

事課・各科外来で、「文書作成」業務の中の診断書・サマリー等仮作成を医事課の書類担当が、診療情報提供書仮作成・「代行入力」業務を各科外来の担当が行っています。

日々、時間にゆとりがあるとは言えませんが、医師には医師業務、看護師には看護業務に専念できるように、私たち医療クラークが日々向上心を持ち、スキルアップすることで患者さんの満足度にも繋がると考えます。少しでも多く貢献できるよう邁進したいと思います。

外科外来医療クラーク 嶋原 由美子

ヘアドネーションをご存知ですか？

Japan Hair Donation & Charity (JHDA) という NPO 法人がおこなっている活動で、寄付をいただいた髪の毛を使用して、病気やケガなどが原因で髪に何らかの悩みを抱えている 18 歳までの子ども達に寄付毛 100% で作られたフルオーダーの「OneWig」を無償でプレゼントをしている活動です。1 体の製作には、およそ 20 - 30 人分の髪の毛の必要とするとされています。寄付をする髪の毛の長さは、最短でも 12 インチ (30.48cm) とされていますが、長さが基準を満たすことができれば、白髪交じりやクセ毛、カラーリングをした髪の毛でも寄付をすることが可能となっています。(詳しくはホームページをご覧ください) <http://jhdac.org/about/>

実際にヘアドネーションを体験したスタッフの感想を掲載させていただきます。

約 1 年半前、「髪の毛の寄付をしてきました！」という友人の SNS 上の投稿を見て、私はヘアドネーションの存在を知りました。

私はその頃すでにロングヘアーではありましたが、まだ切る予定はなく、いつかはバツサリと切りたいなど、なんとなく思っている程度でした。『捨てるものと思っ

いた髪が、人の役にたつなんて！』と驚くと共に、医療の現場で働きながらも、このような寄付があることを知らなかったことに少し心が傷みました。

その時から、私も絶対に寄付しよう、そして、その事をできるだけ多くの人に伝えようと心に決めました。

髪を伸ばすのは結構大変で、それをバツサリと切る勇氣もいりますが、人の役にたつのなら頑張れる気がしませんか？

私は実際にやってみて、気分爽快でしたよ！

少しでも気になった方は、ぜひ「ヘアドネーション」"NPO 法人 JHDAC" を検索してみてください！



リハビリテーションセンター 言語聴覚士 吉本珠実

通訳ボランティア募集中!!

病気の時には誰でも心細い思いをするものです。まして言葉の分からない異国の地で病気になってしまったらその心細さ、不安感をもっと増大すると思います。そんな時に、自分の話す言葉を理解し、症状や病気になったときの状況を医療者へ伝えてくれる通訳ボランティアがいてくれたらどんなに心強く感じるでしょうか。

現在、英語・韓国語については、4 名の方に通訳ボランティアとしてご協力頂けるようになりました。しかし、まだまだ色々な言葉が世界中にあります。「私はこんな言葉が話せます！」という方がおられましたら、是非是非、通訳ボランティアとしてご協力ください。

また、通訳ボランティア以外にも、院内で患者さんの受診や精神的なサポートをしていただくボランティアを募集しています。

「受診の際の介助をお手伝いします」、「文字を書くのが得意なので、手紙を代筆します」、「手品ができるのでイベントお手伝いします」、「手話ができるので手話通訳します」等々、「私の特技を人の為に役立てたい！」という方がおられましたら、連絡室までご連絡ください。

医療福祉連携室 (内線 240)

職場対抗ソフトボール大会

去る 8 月 29 日人吉医療センターソフトボール部は労働基準監督署主催の職場対抗ソフトボール大会に出場しました。

当日はあいにくの雨、大会数日前の台風被害で数チームが棄権し、選手の何人かは県大会に行けるかもと考えながら開会式に臨むと、なんと 1 回戦の相手は昨年の優勝チーム。しかし試合になると前年度優勝チームに最終回までリードする展開、悪天候と相手ピッチャーの老獪な投球術、味方の野次に苦しみながらも締まった試合となり、結果は逆転負けとなりましたが、次の日に控える災害実動訓練に万全の状態でも臨むことが出来ました。

次こそは応援に来ていただいた皆さんに勝利をお見せできるように頑張ります。何よりうちのチームも黄色リボン (= 40 歳以上) の選手が増えた実感した大会でした。

視能訓練士 松村 稔介

病院を見守る「ホスピタルツリー (もちの樹)」

院内図書館「もちの樹」の名前の由来となった木が当院駐車場の片隅にあることを皆さんご存知でしょうか？私はずい最近までこの事を知りませんでした。

このモチノキは明治 11 年に人吉・球磨住人の寄附によって当院の記念樹として植えられ、それから約 140 年余りの歴史をこの病院とともに歩んでいます。

病院の建て替えの際に、3 年間別の土地に移植し工事終了後に現在の場所に移植されました。その時、移植の成功率は

50%とされたそうですが、見事に今も力強く生命をつないでくれています。

当院はこれからもこの木とともに、将来にわたり地域と地域住民の健康を守り続ける思いを込め「ホスピタルツリー」としました。

もし機会がございましたらぜひ一度ご覧になられてみてはいかがでしょうか。

地域連携室 社会福祉士 小田 薫子

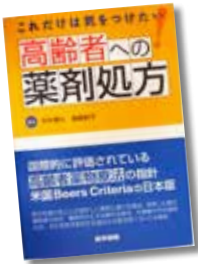
モチノキ

神社に植えられる御神木として縁起のよい木とされています。

モクセイ・モッコクとともに「庭木の三名木」として和庭園などに数多く植栽され、また比較的葉が肉厚で高木となるため、シンボルツリーや防火林、防風林としても用いられています。



書籍紹介



これだけは気をつけたい！**高齢者への薬剤処方**
【医学書院】今井博久・福島紀子／編集

※登録後、救急センター・図書室・第3医局に配架します。

高齢者が服用する際に注意した方がよい薬剤について、その注意点や対応を解説。代替薬やその使用方法がある場合は具体的に記載。米国の高齢者への薬剤投与に関するBeers基準の日本版。付録に「常に服用を避けるべき薬剤一覧」「既往歴から避けるべき薬剤一覧」も収載。

人吉医療センターフェスティバル Vol.8

入場無料

- 日時：平成27年10月18日（日） 10:00～14:00
- 場所：人吉医療センター 内
- 市民公開講座 「安心効果的なおくすりの使い方」
- J.M.Sプログラム「日曜日に乳がん検査を（要予約）」
- 多種体験 電気メス・手術室手洗／骨盤低筋群体操／唾液によるストレス度チェック／骨密度測定／両親学級…その他



RI装置更新による 検査予約停止期間のご案内

当院ではこの度、RI装置の更新を行います。更新に伴う改修工事の為、以下の日程にてRI検査を一時停止致します。

日頃より核医学検査をご利用頂いている先生方には大変ご迷惑をお掛けしますが、ご理解、ご協力の程宜しくお願い致します。

【検査停止期間】

平成27年10月3日（土）～平成27年11月8日（日）

【検査予約停止期間】

平成27年10月3日（土）～平成27年11月2日（月）

なお、平成27年11月9日（月）より検査を再開致しますので、その際には引き続きご利用お願い致します。

ご不明な点がございましたら画像診断センターまでお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先：画像診断センター
TEL 0966-22-2191（内線 668）

9月の勉強会報告

9月10日(木)第83回消化器カンファレンス

- 1.「当院における胃瘻造設の現状について」
人吉医療センター 消化器内科 西村 淳先生
- 2.「大腸sm癌EMR後の治療方針決定に有用なパラメーター」
人吉医療センター 外科 副部長 清田 礼孝先生

9月11日(金)第37回人吉消化器疾患懇話会学術講演会

「大腸腫瘍の病理診断と最近の進歩」
岩手医科大学 医学部 病理診断学講座
教授 菅井 有先生

9月25日(金)人吉乳癌講演会

「閉経後転移乳癌に対する内分泌療法」
熊本大学大学院 生命科学研究部乳腺愛分泌外科学
教授 岩瀬 弘敬先生

新任紹介



松田 李奈（クラーク）

最終卒業校：福岡ビューティーアート専門学校
生活信条：挨拶、笑顔
自分の性格：マイペース

自分のコマーシャル：実務経験はありませんが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。

9月のフレッシュマンセミナー報告

- 9/ 3 園田くるみ「キティちゃんについて」
- 9/10 岩本洋子「BIGBANGについて」
- 9/17 徳富優美「4億分の1の宝物について」
- 9/24 羽田智樹「I Love 福岡」

